

	1明るく元気な地域づくり	2安全で安心な地域づくり	3健康で豊かな地域づくり	4相談しやすい体制づくり
今年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・荻川地域福祉推進連絡会議 ・荻川ちびっ子雪まつり ・荻川子ども食堂 ・子どもの居場所 ・結小学校福祉教育 ・世代間交流観桜会、納涼会(こがね町)/地域祭り交流会、餅つき大会(北潟)/祭り交流会、ふれあい昼食会(中野連合)/多世代交流秋祭り(みそら野)/クリスマス交流会(荻島) 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急情報キットの配布と更新(全自治会・町内会) ・認知症講演会(講師:認知症の人と家族の会 等々力務氏) ・新津第二中学校認知症サポーター養成講座 ・福祉施設と地域とのつながり ・除雪の助け合い活動(車場5、中野2、覚路津) 	<ul style="list-style-type: none"> ・荻川やすらぎの間(藤の木原福祉会の移動支援) ・(各地)ふれあいいいききサロン(※「北潟サロン木守柿」新規開設) ・「お茶の間サロン」意識調査結果説明会(新潟医療福祉大学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・おぎかわあったかネット ・認知症講演会(再掲) ・地域連携による歳末見守り事業(16町内実施+2町内該当者なし) ・地域福祉懇談会(6月・2月)
活動の様子	 <p>おぎかわあったかネット</p>	 <p>認知症講演会</p>	 <p>荻川やすらぎの間</p>	 <p>荻川地域福祉推進連絡会議</p>
取組んでみての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあいスクール」おぎかわだよりでPRも、担い手不足 ・敬老会…各町内会実施希望の意見とコミ協全体実施希望の意見がある ・(車場連合会、こがね町)納涼祭等は多世代交流のチャンスだが夏季は暑さ理由に中止となりやすく、一旦やめると再開困難。時期要検討。 ・コミセン・社協の行事多く、町内の行事予定を組むのが困難 ・(川口)高齢化で祭りの寄付が減っている・役員の担い手不足が課題である 	<ul style="list-style-type: none"> ・おぎかわあったかネットにとりくむ町内会、自治会を増やしたい。 ・(車場ふれあい除雪隊)16名ボラ手挙げも依頼なし。周知不足だったか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(荻川やすらぎの間への移動支援)福祉施設の貢献により送迎してもらっているが、送迎希望が増加した場合の対応が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長が1年交代のためか、民生委員への相談が増える傾向あり ・「歳末見守り事業」…持参品は障がい者への配慮、多様な方への配慮があるものが良い ・サロンに参加されない方への周知 ・「見守り活動」…友愛訪問 対象者150人→120人に減。あったかネットと共通の課題は個人情報への壁。見守りの輪から漏れている人の確認が必要 ・民生委員だけでなく町内で年間通じて見守りは必要である。(こがね町は組長による見守り体制あり)

	1明るく元気な地域づくり	2安全で安心な地域づくり	3健康で豊かな地域づくり	4相談しやすい体制づくり																										
取り組んでみての評価	<ul style="list-style-type: none"> ・(子どものいばしょ)中学生参加多数。安心できる環境だったと評価できる。 ・(荻小「ふれあいスクール」)保護者の参加あり。子どもの居場所兼若い住民の活躍の場。結小でも開始予定。 ・(挨拶運動の日)毎月10日、各町内で継続。顔の見える関係ができてきた。 ・(地域福祉連絡会議)(2回) 学校長参加。地域と学校の関わりについて多くの意見、活発に出た。 ・(中野連合ふれあい昼食会)非常に良かった。喜ばれた。 ・(ちびっ子雪まつり・子ども食堂) (ちびっ子雪まつり)…350人 (子ども食堂)…230人 が参加。多世代がつながる大事な機会。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(コミ協・地区社協) 緊急キット 1,441 世帯に配付。情報用紙更新。R8 対象世帯。新たに 213 本配布。効果期待できる。 ・配布を通し、高齢者の困りごとを把握できてニーズキャッチ効果がある。 ・(地域活動支援センターいしずえ) この懇談会がきっかけになり、地域とのつながりでき始め、中野町内会から、防災食やお水など寄付があるなどの連携が生まれた。 ・(小規模多機能事業所) 事業所と地域運営推進会議を継続し、地域とのつながりが深まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(荻川やすらぎの間) 週 1 回の活動により、参加する高齢者の介護予防になっている。スタッフもやりがいや役割があることで健康を保つ一助になっている。 ・(中野親和会:老人クラブ) 年 4 回の活動は高齢者の集いの場として効果あり。地域行事に積極参加する働きかけを行い、地域と高齢者のつながりをつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(包括支援センター)サロンに参加しての包括の周知を行うことできた。 ・「歳末見守り事業」地域連携スムーズ。 ・(民生委員活動)一斉改選年度。町内の協力で無事に改選ができた。民生委員への相談増は、民生委員の周知が進んだ成果! ・(おぎかわあったかネット)17 町内にて実施。71 名の対象者、82 名の協力員で継続。「お互い様。迷惑かけていい」相談しやすい声かけを工夫。 ・(民生委員の友愛訪問) 継続して活動。あったかネットと合わせ複数の見守りに意義あり ・(福祉懇談会)グループワーク式は意見出しやすく良かった。 																										
5年間の評価	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A</td><td>80%</td></tr> <tr><td>B</td><td>20%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A	80%	B	20%	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A</td><td>40%</td></tr> <tr><td>B</td><td>60%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A	40%	B	60%	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A</td><td>67%</td></tr> <tr><td>B</td><td>33%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A	67%	B	33%	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A</td><td>40%</td></tr> <tr><td>B</td><td>53%</td></tr> <tr><td>C</td><td>7%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A	40%	B	53%	C	7%
Category	Percentage																													
A	80%																													
B	20%																													
Category	Percentage																													
A	40%																													
B	60%																													
Category	Percentage																													
A	67%																													
B	33%																													
Category	Percentage																													
A	40%																													
B	53%																													
C	7%																													
<p>各基本目標に向け、計画書に書かれていることに取組んだかどうかで評価し、懇談会に参加した地域の皆さんがお一人ずつ評価してくださいました。 A=80%以上取組めた(新規活動や既存活動の工夫を行った) B=50%の取組み(既存の取組みの継続) C=30%の取組み(道半ば・やめてしまった)D=全く取組みなかった ※グラフは、評価をつけた方の人数の割合です。</p>																														

【地域活動への関心を高めること】

・町内会の活動に参加する意識がうすれてきている。 ・行事は一旦中止すると再開が難しい(参加減)

【地域の担い手を増やすこと】

・伝統行事ができなくなってきたところから、次世代とのつながり難しくなっている。伝統行事に代わるつながりづくりが必要。

【地域の役員の情報共有がスムーズにできるようにすること】

・個人情報保護が壁になり、町内会と民生委員の情報共有が難しい。

【免許返納後の高齢者や障がいがある方などが地域行事等へ参加できるようにすること】

・免許返納後の移動手段がなく、高齢者のみの行事参加が難しくなってきた。

【孤独・孤立している方を把握する・支援を伝えること】

・長くひきこもっている方が多いと思うが施設や対象者につながりづらい。施設や支援についてを知ってもらうことが大切。

・(地活いしづえ)利用者の親も高齢になっている。50代の利用者がひとりになることも。支援者が関わるまでどうしていたか？早い段階で支援につながると良い。

・友愛訪問対象者減。高齢者独居が増えているのに・・・この理由→介護保険サービスの利用、世間体、認知症など自分で声を上げられない人もいるかもしれない。

・孤独死は65歳未満の1人ぐらし男性が全体の半分!!・・・町内でそういう方への見守りの意識も必要である。

・(包括支援センター)8050世帯の問題がある。圏域ケア会議でも発見と見守りや支援が大きな課題という話題だった。

➡見守りの網の目をつめていく必要(地域内の連携で)がある。目が届かず見守りの輪からこぼれる人もいるかもしれないという意識が必要。

【福祉教育＝助けてと言える意識の醸成が必要】

・1人1人の意識。“人に迷惑をかける”ことへの遠慮大きい。→迷惑かけ合うことが普通という意識づくり

[参加者]

荻川コミ協:窪田会長、松本副会長、真田事務局長、荻川地区社協:関洋一代表、星副代表、関道子副代表、曾我スタッフ、渡辺スタッフ、

荻川民協:高橋会長、横山副会長、田辺副会長、平田副会長、風間会計、自治会・町内会:田中会長(あおば通)、倉島会長(中野連合)、渡辺会長(車場連合)、

区老連荻川協議会:石野会長、地域包括支援センター新津:外川保健師、NPO あきはあすなろ会地域活動支援センターいしづえ:伊庭管理者、

秋葉区社協:秋山事務局長補佐、加藤(支え合いのしくみづくり推進員)